

建設委員会記録

開催日時 平成27年2月17日(火) 13:02～14:44

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

上田 悟 委員長
辻本 黎士 副委員長
太田 敦 委員
岩田 国夫 委員
国中 憲治 委員
秋本登志嗣 委員
山下 力 委員
川口 正志 委員

欠席委員 なし

出席理事者 加藤 県土マネジメント部長

林 まちづくり推進局長

久保田 水道局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

〈質疑応答〉

○上田委員長 それでは、ただいまの説明、報告、または、その他の事項も含めまして、質疑等があればご発言願いたいと思います。

○太田委員 それでは、数点質問させていただきます。

まず、第1点目、LEDの取り組みですが、県が地球温暖化防止に積極的に取り組むことは、環境負荷の少ないまちをつくる上で大きな意義と効果があると思います。今取り組まれている街路灯を省エネルギー型に転換することは、二酸化炭素の削減にも大きく寄与するものと考えますが、県としての取り組み、また、今後の計画について教えていただきたいと思っております。

第2点目は、河川の問題です。市町村の流域貯留浸透事業の補助について、国としても

大和川水系の河川整備計画、上下流が一体となって流域対策に取り組むことができるように、おこなっている市町村のため池治水やグラウンド貯留の取り組みを行うに当たって、現在国庫補助金が3分の1となっておりますが、県としても国に申し入れなども行っておられると思いますが、国庫補助率をぜひ2分の1に引き上げる取り組みが必要ではないかと思っております。その点、国との関係でいいますとどのような状態になっているのかについて教えていただきたいと思っております。

同じく河川の問題で、葛城川ですが、葛城市の少し手前の高田川、葛城川の、大和高田市地域にある部分で未改修部分がございます。地元の方から、なぜここだけ整備されないのかという疑問の声が出されておりますので、その点についてお聞かせをいただきたいと思っております。

また、近鉄松塚駅の南側の小金打川についても現在整備がされておりますが、これも地元から、これによって水害対策がおさまるのかというご意見も寄せられておりますので、このあたりについても教えていただきたいと思っております。

最後に、若草山への移動支援施設ですが、県が若草山の一重目への移動支援としてバスの導入を検討していることになっております。当該地域にバスを走行させるには現在の自然的条件の相当な変革が必要となり、名勝の価値に与える負の影響は甚大なものと考えておりますが、現在バスの導入に当たってどのような取り組みが行われているのかをお伺いしたいと思っております。以上です。

○高木道路管理課長 道路照明のLED化の取り組みについてお答えいたします。

委員お述べのように、近年、LED照明の技術進歩や灯具のコスト低減に伴い、照明コストや使用電力の節減などを目的として、業務用や家庭用のLED照明の導入が急速に進んでおります。県においても、地球温暖化防止の取り組みや東日本大震災以降の電力不足などの問題からも、道路照明の電気使用料や維持管理費の節減に向けて、LED化照明の導入について取り組んでおります。

これまでの取り組みですが、平成22年度に大和中央道において道路照明79基をLED化する試験施工を実施し、その効果について検証したところ、電気代が約50%節減できることが確認できました。また、平成25年度には国道169号の中山トンネル、今年度は同じく国道169号の五社トンネルにおいて、老朽化したトンネルの照明の更新にあわせてトンネル照明のLED化を実施した結果、地元の利用者の方々からはトンネルが明るくなったとの声をいただいております。

しかしながら、LED照明は既存のナトリウム灯などに比べて、依然として価格差があり導入コストが大きいことから、直ちに県の管理する全ての道路照明、約7,500基ありますが、これらをLED化することは困難と考えております。そこで、県では、平成25年度に全ての道路照明の総点検を実施し、老朽化などの調査を行うとともに、照明台帳の整備を行い、来年度、道路照明の更新計画を策定する予定です。更新計画策定に当たっては、他府県の動向並びに最近のLED照明の技術進歩も踏まえ、LED化の検討を進めてまいります。以上です。

○平岡河川課長 太田委員から川に関するご質問が3点ありました。順次お答えさせていただきますと思います。

1点目が、県や市町村が行う流域貯留浸透事業の国庫補助率のアップということで、現状は3分の1、それを河川改修は2分の1なので、それぐらいにアップできないかというお話です。

大和川流域は、地形上の条件や急速な都市化の進展によって保水力がかなり弱いということで、県においても貯める対策が重要だと認識しております。それで市町村と一緒に取り組んでまいりました。例えば委員が先ほどおっしゃいましたように、ため池の治水利用やグラウンドの貯留などによる方法であります。市町村からは流域貯留浸透事業を進めるために補助率をアップされるよう要望があります。過去から県においても必要であるということで、国に対して補助率のアップを要望してまいりました。補助率がアップされない明確な理由は不明確なところがあります。今後もしっかりと要望していきたいと思っております。

2点目が、葛城川の大和高田市奥田の河川改修の状況です。葛城川の大和高田市奥田地区については、平成19年から平成22年まで、地元大和高田市の協力も得ながら用地の境界の立会、買収面積の確定、買収価格の提示などを行って用地交渉を進めてまいりました。ところが、最終的に県の提示単価と地権者の希望価格にかなり開きがあって、現在も用地買収ができていない状況です。その後も土地所有者とは面談ができていない状況ですが、再度、任意交渉を行うべく今後の事業方針について検討してまいりたいと思います。

3点目が、小金打川です。これは特に樞原市曲川町で、浸水被害がかなり発生している浸水常襲地域ということで、それを軽減するために、大和高田市松塚町で曾我川が合流しているのですが、そこから上流に向けて河道の拡幅や河床の掘削工事を行っております。平成21年度には曾我川合流点の逆流防止樋門の工事が完成しました。さらに平成25年

度には近鉄大阪線との横断部の工事も完成して、現在はその上流部で護岸工事を順調に進めております。用地についても、その上流の旧高田東高校の正面付近まで買収ができておりますので、来年度以降も計画的に工事を実施して、事業の促進に努めてまいりたいと思います。以上です。

○中西知事公室審議官観光局次長まちづくり推進局次長（奈良公園室長） 若草山移動支援のバスの取り組み状況についてどのようになっているのかということでしたので、お答えさせていただきます。

まず、バス案ですが、昨年7月30日に開催した第8回奈良公園地区整備検討委員会の中で、県が出していた案以外にもいろいろな意見があるのではないのかということで、私どもに届きました有識者、県民の方等のいろいろな意見を奈良公園地区整備検討委員会に出したところ、その中ではバス案が一番ふさわしいのではないかということです。ただし、そこでも、委員が危惧されていた環境面、景観面、整備面、もろもろの課題はあると。しかしながら、いろいろな意見の中ではこれが一番ふさわしいと思われるので、一度事務局で調査をするようにご指示をいただきました。その奈良公園地区整備検討委員会には日本イコモス国内委員会事務局長もアドバイザーとしておられました。

私どもは今、奈良公園地区整備検討委員会からの指示を受けて、バス案が実際にできるものかどうか、どういう問題があるのかを調査させていただいているところです。調査が終わり次第、奈良公園地区整備検討委員会に出して、委員会の中でいろいろなご意見をいただいて、その上で私どもも意見を述べながら、と考えているところです。

今、私どもがバス案の導入を検討しているということではないことも踏まえて、今の状況を報告させていただきます。以上です。

○太田委員 LEDについては、とりあえず現在の県の状況を調査して、これから進めていくということでした。町なかでも街灯のLED化が進んでおりますので、県としても積極的に取り組んでいただきたいと思います。以上です。

それから、2点目の流域貯留浸透事業の国庫補助率についてですが、9月の本会議でも述べましたが、市町村の流域対策の進捗率が45%で、なかなか進んでいないという実態がありましたので、私も先日、国土交通省に行ってまいりまして、この状況を国としても何とか打開できないかとお話をしてまいりました。国庫補助率を3分の1から2分の1にすぐに引き上げることは現段階ではならないかもしれませんが、引き続き県としても積極的に要望していただいて、私たちからも大いに声を上げていながら、この45%の

進捗率を県独自の取り組みとしても前に進めるように努力をしていただきたいと思います。

それから、葛城川の未改修の部分ですが、所有者と話がうまくいっていないということでした。同時に、これからまたお話をされるということですので、その点については大いに期待をしたいと思います。地元からは、この部分だけが改修されていないということで疑問の声が出されておりますので、そういう意味でも早急に対応をしていただきたいと思います。

小金打川については、橿原市曲川町での水害とおっしゃられました。地元の大和高田市松塚町の総代に聞きますと、実は松塚町でも水がついているのだというお話ですので、その点が気になりましたので今回質問させていただきました。また、改修が終わって、その効果についてしっかり見届けた中で、また地元からの意見があれば述べていきたいと思っております。

最後に、若草山の移動支援施設ですが、先ほどの中西知事公室審議官の話では、まだバス案を導入する前提で話しをしているわけではないということでした。先ほど、影響調査などを行った上で奈良公園地区整備検討委員会の中で議論していきたいということだったのですが、これは大体どれぐらいの見通しで結果を報告される予定なのか、それについてお伺いしたいと思います。

○中西知事公室審議官観光局次長まちづくり推進局次長（奈良公園室長） 予定としては、直接職員による調査という形でご返答させていただこうかと思っておりますので、少しお時間をいただきまして、ことしの夏ぐらいの奈良公園地区整備検討委員会にご返答をできたらいいかと考えております。以上です。

○太田委員 先ほど、あくまでもバス導入を前提にしたものでないということでした。私たちがその結果を見まして、また議論もしていきたいと思っております。以上です。

○上田委員長 ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑等がなければ、これで終わりたいと思っております。

なお、当委員会所管事項に係る議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の3月2日月曜日の本会議終了後に再度開催をさせていただきますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

これをもって本日の委員会を終わります。

